



雇用の確保に全力を! 新病院は不転の決意で

2009年第1回
定例2月議会 福田明議員の一般質問から

雇用をめぐる 市内の深刻な状況

2009年度の第1回定例市議会が19日閉会しました。9日におこなわれた一般質問で日本共産党の福田明議員は、雇用対策や新市立病院建設問題等々について質問しました。その大要を紹介します。

業がでているが、市内の雇用状況をうかがう。

【環境産業部長】市内の工業団地内の企業77社に実施した緊急アンケート調査によれば、従業員数4855名のうち正社員3557名(73%)、派遣社員等1298名(27%)。雇用調整を実施または予定している企業は26社(36%)、雇用調整の予定がない企業は46社(64%)となっている。

【福田議員】市は「緊急雇用相談窓口」し、私自身も3人の方を連れて相談に行つた。相談窓口での、相談件数と主な内容をうかがう。

【環境産業部長】解雇等で職を失った非正規労働者を対象に、1月7日から相談窓口を設置している。現在までに11件の相談があり、その中の1件は住居を確保したい旨の相談で、雇用促進住宅への入居が可能になつ

た。求職相談に関しては、関係各課およびハローワークと共に対応している。

住まいを追われる 若夫婦の事例も

【福田議員】私が関わった1人の方を紹介する。奥さんと生後9ヶ月の子どもを抱えた3人家族で、派遣として働いていた日製関連の会社を昨年の暮れいつぱいで解雇され、それまで住んでいた寮まで追い出されるという内容であった。私と共に相談窓口を訪ね、無事、高萩の雇用促進住宅に入居できた。ひと安心したが、仕事はまだ決まっていなかった状況である。

市としても 対策に全力を

【福田議員】高萩ハローワーク管内(北茨城・高萩)の求人倍率は0.4と、県平均0.72に比べてもきわめて厳しい。とくに製造業は0.12という状況であり、一度解雇されるとなかなか再就職できない実態がある。市も臨時職員の採用など独自の雇用創出や対策が必要ではないか。

【市長公室長】市でも緊急雇用対策として、各課から

雇用可能な業務を提出してもらい、臨時職員として採用する方向で考えている。相談窓口で臨時職員を希望する方がいれば、情報を提供し、登録申込みを受け付けている。

【福田議員】ハローワークへ雇用調整助成金を使って帰休に入りたい等々の相談が30〜40社あるといわれているが、市としても、こうした制度を活用して、万策が尽きるまでは、人員削減や解雇はおこなわないで、あくまで労働者の雇用をまもるよう市内の各企業に強く要請すべきである。

【市長】まさしくその通りであると思つているし、工業団地の経営者のみなさんには申入れている。しかし、非常に厳しい状況には変わりはなく、大変である。

新病院の建設に 不転の決意

【福田議員】公立病院の閉院や民間譲渡があいつぐ中、「病院を新築する」というのは、勇気ある決断だと評価したい。市長の新病院建設にむけての決意をうかがう。

【市長】病院検討委員会の答申のもと、市民のみならずの意見を汲み上げて早期

に着手すべきであると不転の決意を申し述べる。

【福田議員】新病院は、病院施設と保健施設をあわせもつような総合的な病院をつくるべきであると、宮城県涌谷町の例も出して私は提案した。市長は「涌谷町的な病院をつくりたい」と議会でも答弁しているが、現在もそうした考え方でいるか。

【市長】涌谷町方式がいいと考えている。長期療養型を併設したり保健センターは若干遅れてしまいかもしれないが、竣工すれば近々につくり上げるべきと思つている。

【福田議員】建設場所は3ヶ所(現在地、北高跡地、二ツ島)から選ぶとしているが、将来の北茨城を見ずえ、全市民的な観点から最良の建設場所を選定してほしい。

【市長】3つの場所については、それぞれメリット、デメリットがある。それを鑑みながら北茨城の将来や街づくりを展望し、病院の過去の歴史も踏まえて総合的に判断していきたい。
* このほか、介護認定、市内巡回バスについても質疑応答。



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462